

児童会選挙について

2月17日（金）に、現児童会役員が、4年生と5年生の教室に行き、児童会活動について説明をしました。

児童会役員になってよかったことや楽しかったこと、やりがい等、自分の経験したことを伝えて、次期児童会役員にぜひ立候補してほしいと呼びかけました。

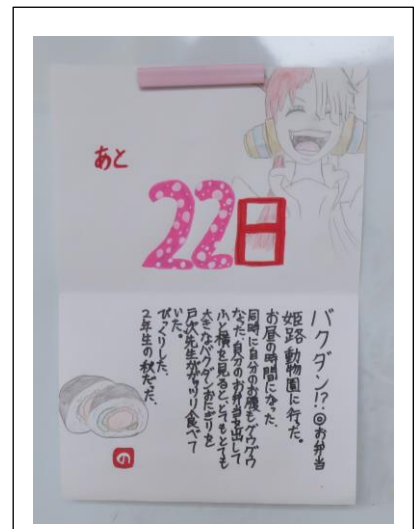
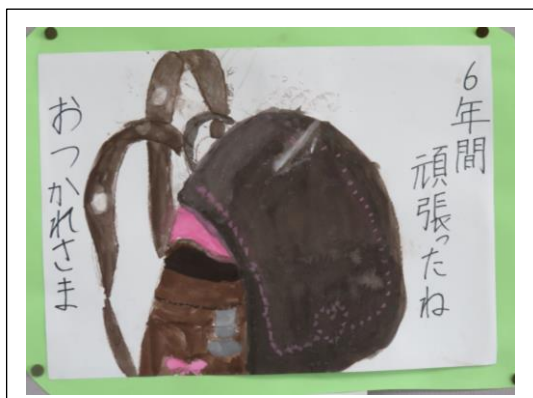


来年度は、平荘小学校最後の年です。創立から131年の歴史ある学校の締めくくりとなる年です。学校を牽引する高学年の役割は大きいです。そして、その高学年から選出された児童会役員の役割にも期待しています。

修了式まで登校は23日

「1月は行く。2月は逃げる。3月は去る。」という言葉を聞きますが、今年度は、残すところ修了式まで23日です。6年生は、卒業まで22日です。一日一日を大切に、今年度のまとめと来年度への準備をしてほしいと思います。

思い出のランドセル（6年生）



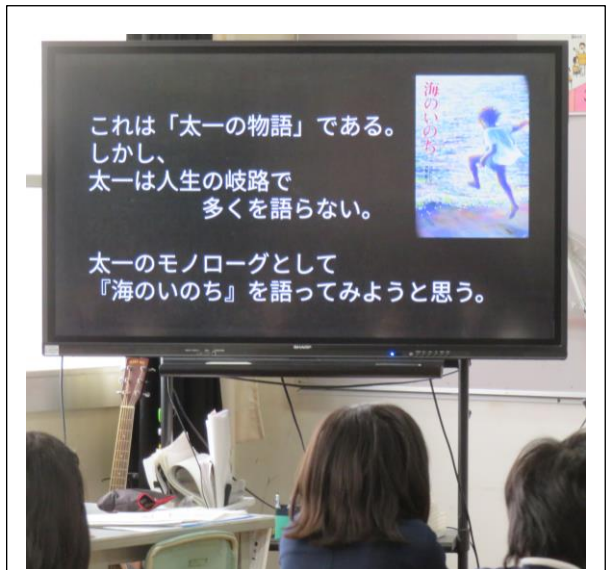
6年間を思い出しながら、ともに小学校生活を送ってきたランドセルを描き、感謝の気持ちを書きました。



6年生：『海の命』の学習より

～『海の命 太一の〇〇物語』ショートムービーを作成しよう～

6年生が、国語科の『海の命』（立松和平 作 伊勢英子 絵）の題材を基に、クリティカルに読み進め、思考力・想像力を高めていきます。登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合い自分の言葉で表現します。



家庭教育大学全市研修会より

2月18日（土）に、第15回加古川教育フォーラム家庭教育大学全市研修会が開催されました。そこで、株式会社てっぺん取締役会長の大嶋啓介氏の講演を聞いてきました。演題は、『大人が輝けば子供が輝く 子供が輝けば加古川が輝く』です。

可能性とは、未来の力であり、潜在能力であります。
自分の可能性は、今の力の3万倍あるそうです。

脳はすごい力を持っています。脳は、パソコン10万台以上の能力を秘めているそうです。

人生でうまくいく人といかない人の違いは？
人生の差は、思い込みの差です。自分には可能性があることに気付くことが大事です。

脳の性質は、否定語は認識しないのです。

つまり、『～しないように』という言い方は、失敗のイメージをさせています。
（例）「ピンク色のゾウはいません。」「黒のサングラスをつけないでください。」と言葉をかけると、ピンクのゾウをイメージしたり、黒のサングラスをつけたイメージをしたりしてしまいます。
言葉かけは肯定語を使うことが可能性を伸ばすポイントになります。

セルフイメージ＝自分で思い込んでいること
脳は、思い込んでいることを実現しようとしていきます。思い込みが強ければ強いほどそう（真実に）なっていきます。可能性にふたをしていることをメンタルブロックといいます。
思い込みが変わると人生が変わります。

【限界突破し可能性を最大限に引き出す方法】

- ①可能性に気づく（可能性にふたをしていることに気づく）
- ②仲間（家族を含む）からの応援の力
- ③誰かを喜ばせたい力（感謝の気持ち）